令和４年度旭川未来会議２０３０若者分野　第２回分野別会議　会議録

１　開催日時　　令和４年８月２６日（金）　午後６時３０分から午後８時３０分まで

２　開催場所　　北彩都ガーデンセンター　体験学習コーナー（旭川市宮前２条１丁目）

３　出席者（参加者）　　秋保里衣，池田七夕梨，加納光，佐藤有沙（オンライン），武田美紀，筒井和騎，沼澤雪菜，山田彩華，吉見季里子
※敬称略，五十音順

４　出席者（市側）　　今津市長
（運営事務局）
地域振興部　三宅部長，八木次長
地域振興課　佐瀬主幹，南條課長補佐，菊地課長補佐，中村主査，新妻
（統括事務局ほか）
総合政策部広報広聴課　中屋課長
総合政策部広報広聴課広聴係　山本係長，乙坂主査
総合政策部政策調整課　廣岡主査

５　会議の公開・非公開　　公開

６　傍聴者　　１名（報道機関：１名）

７　意見交換等

⑴　市長挨拶

参加者と市長との意見交換に先立ち，市長から挨拶を行った。主な内容は次のとおり

・　今日は，お忙しい中，お集まりいただき，感謝申し上げる。
・　私自身，若い方々がどう考えているのか，教えてほしい，勉強させてほしいという気持ちであるので，ぜひ，よろしくお願いしたい。
・　会議の参加者の平均年齢が２６歳ということであるが，自分が２６歳であった頃を思い出してみると，２人目の子どもが生まれた頃であった。今，振り返ってみると，旭川市は，子育てにも非常に良い環境であったこともあり，幸せだったと思う。
・　いわゆる「映える（ばえる）」場所やテーマパークのようなものなどはなくても，「何もないようで何でもある」のが旭川市であると思う。
・　だが，今，多くの若い方々が，自らの意思で旭川市から転出していっており，それは，やはりどこかに課題があるはずだと思う。
・　例えば，学ぶところがもっとあれば，より，多くの若い方が来てくれるかもしれないし，もっと魅力的な働く環境があれば，東京や札幌に行かなくても若い方々が旭川市に留まってくれるかもしれない。また，いろいろなイベントをやってほしいなど，さまざまな声をいただい

ている。

- これからの旭川市については，ワクワクするまちに，そして，旭川市に住んで良かったという誇れるようなまちに，少しずつ，変えていきたいと思っている。
- 今日は，きたんのない御意見をいただきたいと考えているので，よろしくお願いしたい。

⑵ 市長との意見交換

参加者と市長による意見交換を行った。主な内容は次のとおり

（参加者）

- １０年後を考えたときに，やはり，人口が減っていくことがある。商売を行う中でも，市内での市場は小さくなっていく。今後は，外貨の獲得にもチャレンジしていかなければ，持続的な発展は難しい。
- 円安という情勢もあり，諸外国には，安く楽しめる国であるとの見方をされている部分もあるので，来たるべきタイミングに備えて，インバウンド戦略に取り組んでいくべきだと思う。
- その中でもやはり，インバウンドを受け入れる人材，パッケージ，ブランディングについて，市長の考えを聞きたい。

（市長）

- 今後はまちがいなく，ウィズコロナ，アフターコロナという時期になってくる。以前より多くの観光客が来てくれる状況になると思うし，また，そのような状況にしなければならない。
- 旭川の観光の魅力は，やはり春夏秋冬それぞれの魅力がある。ウインタースポーツでいえば，駅から車で１時間で３つくらいのスキー場があり，しかも，極上のパウダースノーである。
- 本州が梅雨の時期は，旭川はさわやかな気候が最高な時期であり，夏であれば，１時間で行ける範囲でゴルフ場が１０か所くらいある。また，秋は少し足を伸ばせば，旭岳などでの紅葉がある。春夏秋冬いつでも楽しめるのが，旭川の観光の魅力である。
- 海外については，これまでの台湾，中国，東南アジアに加え，今まで来てもらえなかったところ，例えばアメリカ本土，オーストラリア，ヨーロッパにも目を向け，触手を伸ばしていきたい。
- 先日，ユネスコ創造都市ネットワークの加盟都市が集まる国際会議への参加のため，ブラジルを訪問した。デザイン分野でネットワークに加盟しているのは，日本では神戸，名古屋，旭川の３都市しかない。
- 国際会議の場では，動画も流しながら，旭川のＰＲを行ってきた。そこでは，誰もが旭川は素晴らしいと言ってくれたし，私自身も，やはり旭川は魅力があるところであると自信を持って帰ってきた。
- 今後もユネスコ創造都市のネットワークを生かし，都市間交流をもっと行っていきたいと考えている。先日，名古屋市長，神戸市長，金沢市長にも会ってきたところであり，ネットワークの各分野に加盟している国内の１０都市が，みんなで力を合わせてやっていこうという話をしたところである。
- 国内，国外の観光客の獲得に向けた戦略をしっかり進めていきたいと考えているし，民間の力も非常に大きいので，ぜひ，いろいろなイベントなどを通じて，引き続き連携していきながら進めていきたいので，よろしくお願いしたい。

（参加者）

・　市長は，旭川で今，一番盛り上がっているイベントや場所はどこであると考えているか。また，今後，それをどのように強化していこうと考えているか。
・　また，スケートボードパークをつくってほしいという声が大きく挙がっている。永山の施設は交通がやや不便であり，学生などが行きにくい状況である。スケートボードについては，オリンピックの効果もあり知名度が上がっているので，できれば屋内の施設を，それをまちなか付近につくってもらえれば，もっと盛り上がるのではないかと思う。スケートボードについては，ストリートでやるということがかっこよく，文化である。また，観せられるということが重要である。

（市長）

・　旭川には，ジョインアライブやライジングサンというようなイベントがないことから，そのようなイベントをやりたいと考えていた。
・　市長になる前，街頭などで若い人から，遊ぶところがない，働くところがないなどのいろいろな意見を聞いた。
・　イベントをやってほしい，スケートボードパークをつくってほしいという意見もあり，若者からは，「信じても良いか。」と聞かれ，「信じてください。」と答えたので，私には，若者たちとの約束がある。
・　１０月に，スタルヒン球場では初となるライブを開催することとなり，イベントについての約束は果たした。
・　スケートボードパークはまだ約束を果たしていないが，先日，駅前広場で体験イベントを実施したところ，一定の盛り上がりを見せた。イベントであれだけ盛り上がったので，恒常的なものであれば，もっと広がりを見せるのではないかと考えている。
・　可能であれば屋内のものができれば良いと思うし，そういう場所がホットスポットになっていくと良いと考えている。また，応援をしてくれる人や観てくれる人がいれば，やりがいもあると思う。

（参加者）

・　スタルヒン球場で開催するライブイベントについて，今年は旭川市の市制１００年を記念してのイベントである。イベント自体は素晴らしいと思うが，開催する目的や，どの年齢層へのアプローチなのか，また，来年以降はどうする予定であるのかについて知りたい。

（市長）

・　ターゲットについては，市制１００年ということもあり，若い方に限らず，幅広く楽しんでもらえるようなことを考えた。出演者については，それらを踏まえてプロダクション等との交渉を重ねた結果，今回の出演者となったという経緯である。

（参加者）

・　市長が公約に掲げている屋外ダンスイベント・ライブイベントについて，今後，どのようなペースで誰が開催していくのか，誰でも主催できるのかについても知りたい。

（市長）

・　スタルヒン球場については，今後は誰でも使えることとなるが，スタルヒン球場でライブができることを皆さんはまだ知らないので，これからは使えるということをお示ししていきたい。
・　今年については，市制１００年に合わせ，コロナの影響で我慢していた市民の皆様の元気が出るようなイベントをやりたいと考え，フェスティバルを行うこととしたが，来年以降につい

ては，毎年，行政が実施するものでもないと思う。

- 来年以降は，スタルヒン球場や野外の会場を使って，ライブをやりたいという人が出てきてほしい。過去には，旭川でも江丹別やサンタプレゼントパークでライブジャムなどの野外ライブが行われたこともあった。
- イベントを開催し続けるのもお金がかかるので，難しい面もあるが，来年以降は，どなたかやってくれる人が出てきてほしいと期待している。
- あまり規模が大きくない手作りのイベントであっても，何かが行われれば，変わってくると思う。

（参加者）

- 買物公園でストリートライブなどがあると，ものすごく盛り上がり，人も集まるが，イベントの申請にものすごく時間がかかる。それをもう少し簡潔に，簡単に行うということは，今後，可能であるか。

（市長）

- 道路使用許可などに時間がかかるという声はよく聞くところであり，例えば，一度，申請が認められ，ライセンスを持っている人については，次回以降は，空いている時間であれば自由に開催できるなど，そういうことができれば良いと考えている。

（参加者）

- 前回の会議でも，若い人たちに活気があって，若い人たちに住みやすいまちにしていくことが大事ではないかという話になった。
- 新しいことを生み出す，今，ないものをつくりだすときに，どれくらいの実現可能性があるのか。コスト的なことも含めて，「０→１」をつくりだすことがどれくらい可能なのか。
- 若者に特化した「カルチャーセンター」的な場所があっても良いと思っている。市長も公約で「障害者スポーツのメッカ」ということを掲げている。新しいところに若者が触れることは一若者としても良いと思うが，今，何もないところに新しいものをつくるということにどれだけのハードルがあるのか。

（市長）

- お金がかかるものについても，ハード系のもの，ソフト系のものなどいろいろある。また，お金をかけなくてもできるものもある。
- カルチャーセンターについては，必ずしも新しい建物をつくらなくてもできることではないかと考えている。例えば，駅前には蔵を改造した地ビール館，ギャラリー，ココデ，勤労者福祉会館などもある。また，新庁舎もできることから，新庁舎の１階を開放すればできるのではないかと考えている。
- 障害者スポーツについては，車いす関係の団体が中心となって，先進的な取組を行っている。また，数年前にはクロスカントリーのワールドカップも開催している。そのようなものにはお金をかけずに，民間の力を借りてできるものもあるので，バランスよくやっていきたいと考えている。

（参加者）

- 行政は，コロナの問題にどの自治体も追われているように見える。そういう中で，新しい事業を生み出すということは大変なことではないか。

（市長）

・　感染拡大防止と社会経済活動をどのように行っていくのかが大切であると考えている。コロナ禍だから新しいことができないということではなくて，アフターコロナは，コロナ前を上回る旭川にしたいと思っている。いろいろな困難なこともあるが，いろんな人と知恵を出し合い，新しい取組にも恐れずに，取り組んでいきたいと考えている。

（参加者）

・　医療にかかわる人間として，感染症対策も大事にしたい気持ちもありつつ，旭川は大好きなまちなので，今後も発展してほしいという気持ちもありジレンマを抱えていたが，市長の心強い言葉を聞けて良かった。

（参加者）

・　１年前に東京から移住し，東京との２拠点生活をしている。当初から旭川に移住しようと思っていたわけではなく，現在の会社に就職することがきっかけで移住してきたが，旭川は本当に素敵なまちだと思っている。

・　東京の友人たちにもＰＲしているが，よく言われるのが，働き口がないことと，テレワーク，ワーケーションのアクセスが悪いということである。今，このような時代なので，都市圏の人たちは自然豊かなところで働きたいと思っている人が多いと感じる。

・　これから，旭川にいろいろな人が移住し，人が増えたら良いと願っており，市外の人をどのように受け入れようと考えているか，今，旭川にいる若者が，このまちで働く未来を描けるようなまちにしていくために，どのように産業構造を変革していこうと考えているか。

（市長）

・　旭川を選んでいただき，ありがたく思う。旭川の強みは自然環境，公共交通機関の利便性，医療機関，災害に強いことなど，さまざまである。

・　いただいた意見も参考にしながら，今後は，企業誘致や移住にもどんどん取り組んでいきたい。現在，１市８町で，ワーケーションや観光などの分野での連携を強化して取組を進めている。日ごとに１市８町を移動しながら，それぞれの景色や温泉，特産品などを楽しみながらテレワークを行うのも良いのではないかと思う。

・　企業誘致については，首都直下型地震や南海トラフ地震，新たな感染症などを見据え，企業が首都圏から地方に移転するという流れも起こっており，そういう意味では，旭川にはチャンスであると考えている。東京サテライトオフィスも人を増やし，１市８町の魅力の発信をおこなっている。人口が減っていく中でも活力のある旭川を目指していくためには，交流人口，関係人口を増やしていくことが大事なので，今後も取組を進めていきたい。

・　そういう意味では，スポーツを通じたまちづくりにも可能性を感じている。ソフトボールの女子の大会は毎年行われているし，今年は，慶應義塾大学野球部の合宿も行われた。新型コロナウイルス感染症の影響もあり，なかなか難しかったが，本当は，もっと多くの方に見てほしかったし，できれば，勉強などの交流もしてほしかった。

・　移住，企業誘致，スポーツについては，旭川はまだまだこれからだと思っている。私自身，しっかりと魅力を発信していきたいと考えている。

・　再来週，羽田空港のターミナルで１市８町の初めての物産展を開催する。物を売ることだけではなく，電車に広告を出し，移住，企業誘致についても，ぜひ来てくださいとアピールする取組もどんどん行っていきたい。

（参加者）

・　生まれも育ちも旭川であるが，旭川は災害もないし，自然が豊かで渋滞もしない。医療も充実している。子育てもしやすい環境である。とても良いまちなのに，なぜ若者が離れていくのか。大学で旭川を出て，そのまま帰ってこない若者も多い。このことについて，周りに意見を聞いてみたところ，遊ぶところがない，交通手段がないという意見が多く出た。
・　そのことについては私も共感できるが，祭りなどでは，こんなに人がいたのかというくらい多くの人が出ていた。旭川はれてで開催された盆踊り大会でも，子ども連れをはじめ，幅広い世代で多くの人が集まった。人が動くということは関心があるということなので，その活力を生かしていければ良い。
・　イベントもそうだが，若者が企画したイベントに多くの人が参加すると，若者もそのイベントを自発的に開催したという自信を持つことができる。それを旭川で短いスパンで何度も実現できると，若者が遊ぶところがないということも解消されるし，旭川の人たちも楽しめるというウインウインの関係を築くことができる。
・　実行することで興味もわく，興味がわいてくれば，意見もどんどん言っていこうという良い循環ができていくと思う。
・　私もこういう素敵な機会をいただけて意見を言えることは良いことであると思うし，改めて市のことを考えるという新しい機会である。このような機会が若者世代にも気軽に訪れたら，旭川も変わっていくのではないかと思うところであるが，市長が若者に対して求めることは何か，意見を出すだけなのか，それを最後まで自分でやっていってほしいのか，求めることをお聞きしたい。

（市長）

・　若者たちに対しては，まずは，失敗は恐れずにやってほしいということがある。いつも成功はしないと思うが，私たちの立場でいえば，まずはやってみようと思ってもらえるまちにしたい。チャレンジできるまち，そういうまちにしたい。
・　市で毎年補助金を出している祭りなどもある。しっかりと計画を立てて，サポートを求められれば，市もしっかりと対応できる。そういうときには遠慮なく言ってほしい。
・　遊ぶところがないという話が出たが，遊ぶところとはどういうイメージか。

（参加者）

・　２２時以降，どこのお店も開いていない。また，夜景がきれいなのに，クマが出るような危険なところでなければ見られないなど，旭川には生かせるものがあるのに，生かしきれないという感じがする。先ほど，スケートボードの話も出たが，夜になるとスケートボードに乗る人たちが買物公園に出てくるのは，行き場所がないからではないか。

（市長）

・　先日，チームナックスの森崎さんが市制１００年のシンポジウムで来てくれて，私もディスカッションに参加したが，旭川には動物園プラスワンの場所がないという話になった。例えば夜景の見えるところや，お金をかけなくても集まれる場所，居場所があれば良い。仲間が集まってたむろする，誰かがいるから行ってみようという場所，そういう場所が買物公園にあれば良いと思う。
・　少子高齢化が進み，どんどん人口が減ってくると，図書館を無料で提供するなどの住民サービスを提供することができなくなるという可能性もある。空き家ばかりになると犯罪も増えてくることも懸念される。

・　先日，金沢を訪問した。金沢には，大学が多くあることもあり，若者が多い。金沢は，めがねで有名な福井の鯖江，名古屋などと連携して地域で産業を行っている。旭川も地域で力をつけていかなければならないと考えている。
・　例えば農業などは非常に伸びしろがある。帯広は農業で儲かっているが，旭川も米，酪農，畜産，畑など，儲かる農業に変えていければ良い。伸びしろがある産業に力を入れて，旭川のものを外に打っていけば，外からお金が入ってくる。旭川のものを国内に限らず，世界に売っていくということを考えている。

（参加者）

・　買物公園について，４条以北はあまり人が来ないイメージである。観光客は多いが，地元の人が来ていない。「駅から歩くと遠い」「駐車場はないのか」などマイナスな声も多い。買物公園は街の顔とされているが，すたれてきている。
・　たまり場という発想はすごく良い。お金がなくても若い人が集まれる場所が７条や８条まであれば，若者の足も伸びていくだろうし，スケートボードも自由にできるようになれば，若者の買物公園に対する印象も変わってくるのではないか。
・　また，お金がかからなくて，旭川家具など旭川の魅力であるデザインを生かせるものとして，デザイン美術館などは旭川でできないか。東川で動いていると思うが，旭川でもそういうものができたら良い。老若男女が楽しめるし，雨の日でも天候が関係なく楽しめる，旭川の魅力を発信していけるような場所となると思うが，市長はどのように考えるか。

（市長）

・　先日，ニューヨークの美術館を訪れたが，教科書で見るような絵画が展示されていた。それはそれで素晴らしいものであった。
・　デザイン美術館については，ニューヨークのようなものはお金がかかるので，そんなに大それたものはできなくても，北彩都に市民の皆さんの作品を展示するとか，屋外にいろんなオブジェを飾るなど，やり方次第で，見せ方でいろいろできる。そのようなことをやっていきたい。

（参加者）

・　若者の中には，何かを変えたいと思っている人は多いと思う。普段の会話の中では「こんなことができれば良い」など，いろいろな意見が出るのだが，投票にはなかなか結び付いていない。声を上げようと思っているのに，上げる機会がない。政治家の思っていることと若者が考えていることが合っていないと感じて足を運ばなくなっているのか。若者は自ら投票には行かない。だが不満はあるという不整合な状況である。
・　旭川は空港の就航率も高いし，経済もいろいろな分野があり，旭川オリジナルもあると思うが，いろいろな分野の中で，市長は，どの分野において，一番の課題があると考えているのか。
・　投票については，政治家の主張が若者に届いていないということがある。若者の投票率を高めていくということをする上では，政治家がやりたいことについて，自分がまず理解しなければならないと思っている。

（市長）

・　課題について，順位付けはなかなか難しいが，今の状況では，医療体制やワクチン接種，社会経済をどう回すかなどのコロナ対策ということになる。
・　そのほかにも，いじめの問題，除排雪，スポーツ，農業，中心市街地，若者の皆さんの声を聴くこと，また，高齢者の方，ひとり暮らしの方，障害をお持ちの方も安心して暮らせるよう

なまちにしなければならない。

- 投票率が上がっていかないということは大きな課題であるが，これは，候補者が反省をするしかない。魅力がある候補者で，投票すれば旭川が良くなると思えば，有権者は投票に行くと思う。それなのに投票に行かないということは，自分自身を含めた候補者の魅力や発信が足りないからであると思う。一義的に，若い方が政治に興味がないからだとは私は思わない。
- 他の都市では，投票証明書というものを発行し，それがあれば，飲食店で割引になる，サービスが付くなどの取組を行っているところもある。旭川では全然行われていなかったが，今年の参議院選挙で投票証明書を発行したところ，これが意外と好評であった。そのような取組も，投票に行くきっかけとして必要であると思う。
- インターネットによる投票も検討されているが，万が一，通信障害などが発生した場合，貴重な一票がなくなってしまうということもあり，日本ではなかなか進んでいない。
- 新たな取組としては，例えば大型商業施設に共通投票所を設置するということについても，先駆けて行ってみたいと考えている。

（参加者）

- 投票証明書については思った以上に知らない方が多かった。世代ごとに選べるものであればもっと良かったと思う。例えば若い人であれば，若い人がよく行くようなお店の割引券など，バリエーション的なものがあれば，もう少し良かったと思う。

（市長）

- 投票所については，入ったら静かであり，話をしてはいけないような圧迫感がある。もっと分かりやすくするような雰囲気をつくっていかなければならない。
- 投票証明書による割引についても，これから回を重ねていくにつれて協力を得られる店を増やすなど，その都度，バージョンアップさせていきたい。

（参加者）

- 前回の会議では，交通が不便であるという声が挙がったところである。市長は公約で，ＬＣＣ便の増加ということも掲げられているが，これについては，市の一存で決められることであるのか，北海道と協力して叶えられる課題であるのかどうかをお聞きしたい。

（市長）

- ＬＣＣについて，かつては旭川でも就航していたが，コロナの影響もあり，今は就航していない。ＬＣＣは，民間の会社であるので，旭川に就航すれば人が乗るという状況にならなければ，誘致はなかなか難しいので，まずは旭川の魅力を高めることが必要である。
- ＬＣＣの親会社にもアプローチを行っているが，そこでお願いしていることは，ＬＣＣももちろんだが，旭川と東京の間の便について，日帰りが可能になる早朝便と夜間便の検討についてお願いしてきた。
- 名古屋便と大阪便については，かつては通年運航であったこともあるが，今は季節運航なので，これについても，運航期間を延ばすことや，通年運航とすることについてもお願いするなど，いろいろと動いているところである。
- 北海道の一括民間委託に係る離発着についても，国交省からも情報を得ながら，旭川が千歳の代替空港となるよう要望している。
- 航空便の誘致については，相手のあることなので，いろいろなところと交渉しながら進めているところである。

（参加者）

・　旭川をデザインで盛り上げるために，必要なことはどのようなことがあるのか。一個人としては，デザイン性のある建物や美術館，博物館もそうだが，まちなかにオブジェや写真映えスポットがあることなども考えられると思う。先日，市長は，ブラジルで旭川市の魅力を大きくアピールするスピーチをしてくださっていたが，海外でも通用するようなデザインについて，旭川市にとってどのようなものが必要であると思われているか。

（市長）

・　デザインについては，私もいろいろな人からいろいろな話を聞き，勉強しているところであるが，すごく伸びしろや可能性があると感じている。旭川に住んでいる我々以上に，世界の方々が，旭川のデザインはすごいと言ってくれている。

・　デザインについては，ＡＤＷやＩＦＤＡの開催など，今も，旭川家具工業協同組合や旭川デザイン協議会の方などが一生懸命頑張ってくれていると思う。ユネスコから，日本で３都市しかないデザイン都市に認定されている旭川であるが，それを市民にどう伝えていくか。

・　旭川のデザインは，歴史と共に培ってきた。旧陸軍第七師団ができて，鉄道が引かれ，商売を行う人や軍人が来て，生活必需品として家具などが出てきて，それが花嫁箪笥からデザイン性の高い椅子になってくるという，まさに，歴史が認められて，デザイン創造都市の認定を受けた。

・　デザインの何が分かりづらいかというと，デザインは幅広いものであり，全部がデザインであるという話になるので，難しくなる。市役所でもデザイン行政改革に取り組んでいるが，部などの壁を取り払い，みんなで考えていこうというのがデザイン行政改革なのだが，これだけでもわかりづらいと思う。

・　産業，観光，酒づくり，陶芸，染物，そして，都市計画にもデザインがかかわってくる。例えば，駅から５分でカヌーに乗れることというのは，デザインのまちそのものであると思う。そのようなことをまちづくりでやっていきたい。

・　市役所の住民票の申請書などは，私が幼少の頃から変わらず同じ大きさであるが，デザインにより，そのようなものを小さくしたり，書きやすくできるということを聞く。また，デザイン性のある分かりやすい看板やサインを設置すれば，目的の窓口などに行きやすくなる。それがデザインというものである。

・　そのような考えを浸透させていくために，子どもたちにもデザイン教育を始めているところである。また，身近なところ，例えば，デザインのまちらしく婚姻届をおしゃれなものにするなど，そのようなことも行っていきたいと考えている。若い皆さんからも良いアイデアがあれば教えてほしい。

（参加者）

・　確かに，デザインというと幅広いものがあると思うので，旭川らしさを表現するために，例えば，椅子の歴史などにジャンルを絞っても良いと思う。

・　以前，兵庫県の竹中大工道具館を訪れたことがあるが，昔からの大工道具だけが展示されており，その道具で作られた職人さんの技術が分かりやすく展示されていた。分かりやすい説明書きもあったし，建物もきれいで，全館，写真撮影や動画撮影も可能であり，とても楽しむことができた。

・　旭川もものづくりが盛んなところであるし，全国的に見ても，家具づくりが盛んなところは

すごく珍しいところである。

・　東川にデザイナーの隈研吾さんのプロジェクトでデザインミュージアムができたという話を耳にした。現在の会社に入社した当時，旭川はデザインで有名だという意識があって来たのだが，まちなかを見ると，それほどデザインを感じないというのが率直な意見である。旭川にもぜひとも，旭川らしさが見えるような，デザインもそうだが，若者が関心を持てるような施設をつくっていただけたらと思う。

（市長）

・　先ほど，若者のカルチャーセンターという話も出たが，デザイン美術館についても，何ができるかを考えていきたいと思う。

・　旭川は彫刻のまちといわれ，橋など，市内のあちらこちらに彫刻があるが，すみっこに追いやられ，なんだか申し訳なさそうに置いてあるように感じる。買物公園の手の噴水も，昔は４・５仲通に置いてあった。デザイン都市ではあるが，良いか悪いかは別として，今は買物公園の一番端に置かれている状況である。

・　東川は隈研吾さんのデザインミュージアムや織田コレクションなど，非常に注目されているが，市長に就任させていただいたので，旭川もやっていきたいと考えている。期待してほしい。

（参加者）

・　スマートシティのビジョンについて，現状の進み具合で満足なのか。また，若年層の動画（YouTube，vtuber）の活用など，旭川のＩＴについてどう考えているか。

・　ＩＣＴパークが話題になっているが，ｅスポーツの盛り上がりについてどう思うか。また，それをまちづくりに生かすことは可能であると考えているか。

（市長）

・　ＩＴについては，完全に遅れていると思う。今，都市部では，いろいろな施設にＷｉ−Ｆｉが完備されているし，会議場も有線がしっかりと整備されている。

・　だが，旭川市では，クリスタルホールや，よく会議で使われる勤労者福祉会館，ときわ市民ホールといった施設にＷｉ−Ｆｉがないなど全く遅れているので，そこには対応していきたい。

・　また，デジタル化という意味では，市役所にＣＤＯ（最高デジタル責任者）を配置して，デジタル化を進めている。

・　ＩＣＴパークについても，良いものであるが，残念ながら知られていない。これをもっと皆さんに知ってもらい，使ってもらえるような取組を進めているところである。また，ＩＣＴパークについては，現在，民間と共同で運営しているが，より，民間の方に入っていただき，もっと民間の力で活性化されていくと良いと考えている。

・　ｅスポーツについては，ＩＣＴパークで，野球ゲーム，パズルゲーム，車のゲームなど，いろいろな大会が行われており，非常に好評であるので，これを地道にやり続けることによって広げていきたいと考えている。

・　旭川には高専もあるし，工業高校もある。また，Ｕ１６プログラミングコンテストが開催されており，今年は，全国のプログラミング大会のプレ大会が行われるという話も聞いている。プログラミングやＩＣＴパークの活用については，これから光を浴びてくると思うし，光を当てていきたい，どんどん発信していきたいと思っている。

（参加者）

・　前回の会議では，買物公園の話が多く出た。その中で「歩くとけっこう遠い」，「交通が不便」

という声も挙がったところである。

- 先日，買物公園のイベントで，今津市長が電動キックボードで登場し，大きなインパクトを残したと思う。デザインにも関わってくると思うが，人の流れを変えるような新しい交通手段でが出てくると非常におもしろいという期待感を持った。
- そのようなものも含め，市長は新しい買物公園をどのようにイメージしているのかをお聞きしたい。

（市長）

- 「政策を推進する」，わかりやすく言えば「皆さんの気持ちを市政に実現する」ためには裏付けが必要である。一つは，このような場で皆さんの意見を身近に聴かせていただくことと，それと，多くの市民の方がどう思っているかを聴くこと，いろいろな耳を持つことが大事である。
- 買物公園に関しては，多くの市民の方々にアンケートを取っているところである。市民の方が，どのような買物公園に魅力を感じるのか，先ほどの話で出たような居場所なのか，子どもたちが水遊びをするところなのか，スケートボードができるところなのか，公園なのか，買物がメインなのか，また，利便性でいえば，車が通っていた方が良いのか，図書館があった方が良いのかなど，いろいろな考えがあると思うので，それを集約し，得られた声をもとに，政策をつくっていこうと思っている。
- なんとなく，皆さんは，買物公園は元気がないと思っていて，私は，今のままでは良くないと思っている。私は，幼少の頃から，買物公園には人が集まる，買物公園に行くと楽しいという時代に育ってきたので，そのような場所を今の若い人にも提供したい。
- そのような意味からも，中心市街地活性化を何としてもやり遂げたいし，市民の方が，楽しい，ワクワクするような買物公園にしたい。
- 実は，買物公園にキックボードで登場したことには理由がある。これから買物公園を変えていくという一石を投じた。スイッチを押したということである。
- だが，中には，買物公園については，キックボードはいらないという意見の人もいるであろうし，自転車を通した方が良いという意見の人など，いろいろな意見があって良いと思う。
- アンケートで皆さんの意見を聴き，旭山動物園が理想の動物園に変わっていったように，皆さんの理想の，新しい時代の買物公園をつくっていきたいと思う。そこに，皆さんの思いが，美術館，居場所，カフェ，デザインギャラリーなどがどんどん，そこに組み込まれてくれば，素敵なまちになるのではないかと思う。

⑶ 市長との意見交換を踏まえた議論

市長との意見交換を踏まえ，参加者同士による議論を行った。主な内容は次のとおり

（参加者）

- 参加者の皆さんの質問自体がそれぞれの強みを生かした意見であり，なるほどと思いながら聞かせていただいたが，皆さんの一つ一つの質問に，市長がすごく高い熱量で答えていたのが印象的であり，なんでもできそうな気がすると感じた。

（参加者）

- 話の中で，文化的なことと経済的なことが一緒になって話されていると感じた。それらは相関的な関係にあると思うが，例えば，デザインであるとか，アートミュージアムをつくるということなどは，経済的な効果がどうなるかということではないと思うので，結論として出すときには，それらを分離して考えた方が良いと思う。

・　このまちの文化的なことだということと，移住者を増やすためにワーケーションをつくっていくということや若者の最低賃金を上げるために雇用をどのようにしていくかということなどは，ややフェーズが違う話であるのではないかと思った。

（参加者）

・　文化的な面や経済的な面からたくさんの意見が出たので，今後については，その中のいくつかの意見を並べながら，若者たちが住みやすい，暮らしたいまちにしていくという方向でまとめて，提案していくという形で進めていくことで良いと思う。